

昼の部

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る

○移住者も地域住民も十人十色，これからの暮らしの理想も一つではない

→ お互いに知り合う機会が必要

- ・新たな移住者を迎えての地域づくりは難しい
- ・隣人のことを気に掛ける余裕はない
- ・仕事（生活基盤）があって，ゆとりのある暮らしをしていけるように
- ・移住者（特に若い世代）は生活基盤づくりに必死，という前提をもつこと

○「かがやく」とはどういうことか？を考えることが重要

- ・かがやく，理想の暮らしを皆が営んでいること
- ・誰一人孤立しない地域をつくる，誰も取り残さない

→ 何が「かがやく」なのかを一人ひとりが考え，行動しよう！！ ビジョンを推進するためのチームの発足を

- ・いろんな既存のチームがある
- ・かがやく，地域イメージを作る第一ステップに
- ・いろんな考え，思いの人がいるが，生活の単位が共通点
- ・集落単位で考えること
- ・移住に関しては，自治会と分けた体制も必要
- ・自治会の任期は2年，ノウハウなど継承できない

・宇津でも移住の取組を進めているが，事業者との情報共有が必須

- ・地域と移住者のつなぎ役が必要
- ・黒田，宇津がんばっている，山国も増えている
- ・移住者間での広がりも生まれている
- ・黒田は移住の先進地，これまでの蓄積，土壌がある
- ・おーらい黒田屋が拠点

(2) これから取り組みたいこと

○『『移住』をキーワードに，集落単位でチームを作る』

- ・それぞれの地域で，「かがやく」とは何かを考えてみる（チームとして考える，共有・交換・連携・協働を…）
- ・フリースタイルのチーム，他の集落のチームづくりを支援 → まず黒田，宇津をモデルに勉強する

(3) 具体的な取組内容

○6つの地域でのチーム作り

- ・山国
- ・宇津（いっぶく家）
- ・細野（若い人がまだ居て人が集まる，自治会役員も若い）
- ・弓削
- ・黒田（おーらい黒田屋）
- ・周山（3～4年前に各自治会で移住促進の組織はある）
＋フリースタイル（よそものによるルーム，コーディネーター役も？）

○チームによる活動，チームの構成

- ・一人では京北の全体をみることでできない，小さな集落を単位に
- ・チームの自発的な取組に自治会がどう関わるか？お金の問題がある
- ・地域で何が起きているかを自治会は把握している
- ・自治会から任せてもらう，楽しいチーム運営を
- ・地域住民のネットワークを使って，チームをつくる
- ・農家組合など，既存の組織を活用

○チームの活動イメージ

- ・言い出した人，賛同してくれる人を中心に
- ・ちょっとした日役なども
- ・自発的，自由な動きを。楽しく話せる場に
- ・友達の間で，横のつながりを

○コミュニティを形成する仕掛けをつくろう

- ・地域のお祭りを作ろう，祭り・にぎわい・晴れの場…
- ・Uターン促進，地元に戻るきっかけづくり
- ・Iターンのきっかけを探す，Iターンの実例を探す，つくる
- ・今はここにいない人，縛られるのが嫌，都会の暮らしをしている人
- ・田舎暮らし，薪ストーブのあこがれを持っている人もいる

昼の部

（1）これからの取組に向けて焦点を絞る**○農林業が復活してほしい**

- ・昔はお金もあった、木もあった。社会現象を起こすくらいのものがほしい。
- ・野菜など、自分たちの強みを理解すること。
- ・林業を制する者は国を制する
- ・国土を守る林業、再生を目指したい
 - 人材確保
 - 野菜、肉の地産地消
 - 農家が稼げる仕組みづくり

○働く人の確保に向けて、空き家の活用

- ・プレハブの家が増えている
- ・家を放置しておくとも床は腐る、人に貸すのをやめる
- ・空き家を活用する際に、仏壇があることもネック

○働く人の確保に向けて、働く場所の確保

- ・多様な働き方ができる場所が必要
- ・コワーキングスペース、カフェなど。夕食が食べられる場所もあれば。IT企業が集まってくる
- ・情報発信も必要
 - 地元からの文化の発信が合わせてできる
 - 立地、空き家、起業

○働く人の確保に向けて、人材確保

- ・林業大学校は他府県から人を集めている
- ・行政の人材育成、常識にとられない人材育成を

（2）これから取り組みたいこと**○「起業と空き家対策の連携」**

- ・空き家を売るように
 - 活用できる空き家がない（仏壇があるなど）
 - お試し期間が短い点も課題

（3）具体的な取組内容**○京北での新しい仕事**

- ・京北で新しい仕事を作る
- ・1ターン組との話ができる場を作ることが重要
- ・時代の移り変わりが早い、新しいことを取り入れることが必要

○空き家の活用（仕事場としても）

- ・空き家に入った方が、子どもが大きくなるとすぐ市内へ出ていってしまう
- ・家賃が安いという理由だけで京北に来る人がいるのはどうかと思う
- ・空き家問題について、コロナはチャンス
- ・水力発電所はあるが、停電で止まって最後までダメだった
- ・一つのものでも、10人ほどで借りれば負担が少ない
- ・空き家は放っておくとすぐ10年経つ、傷んでしまう

（2）これから取り組みたいこと**○「農林業の再生」**

- ・「京北」と「地域外」をつなげるコミュニケーションを
- ・外から人が継続して集まり続ける取組（春夏秋冬）
 - 他地域の活動事例を調べる

（3）具体的な取組内容**○「京北」と「地域外」をつなげるコミュニケーションを**

- ・田舎のイメージのギャップ、コミュニケーションが必要
- ・獣害が一番のネック、行政が補助金を
- ・電柵を作るのに大金がかかる、200万くらいか
- ・京北の大工さんが元気になるような取組を

○外から人が継続して集まり続ける取組（春夏秋冬）

- ・美山に行くだけの通り道にしないように
- ・山を大人の遊び場に
 - 他地域の活動事例を調べる

夜の部

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る

○キーワード「農林業」

- ・今、挙げているギャップでなんとかしている人がいる
- ・今、実際に生計を立てている人がいる
- ・今、困っていること ⇒発想、見方を逆にするとみえてくるものがある

→今どうなのか足元をしっかり把握すること！！

- ・現状の分析から始めたほうがいい
- ・問題点 もっと整理、把握する必要がある
(ここに書いていないものが多い)

→実際にやっている人の話を聞いていく(どのようにやっているか、うまくやるための苦労、工夫)

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る

○キーワード「地域で仕事を作る」

- ・地域に必要なことで仕事を作る
- ・仕事を新しく作っていききたい、レストランを作るとか
- ・シェアハウスを作る →外の人に Welcome という空気を作る
- ・地域に必要なものを作るチャレンジをする

→何をやろうかと決めれば何をやればいいかが出てくる

- ・自分には何ができるかを考える、把握する
- ・自分自身のこと、自分の地域のことをきちんとわかる

→地域に住む為に、稼ぐ、もらう

- ・生活必需品をもらえるかわりに、地域の人にかかわる
- その役が楽しいことが重要、地域の一員になれば畑も借りれる、駐車場も借りれる

- ・教えたり学んだりすべき、眺めているだけでなく
- ・一緒に作業する関係、コミュニケーションが大事
- ・財産区の日役に移住者も加えていく
- ・送迎のお手伝い、会話も生まれる
- ・林業、農業のエキスパートがいれば地域が回る

(2) これから取り組みたいこと

○『「移住」 ・ 仕事 ・ 空き家 」

「仕事」・人口が減ってもできる仕事を見つける、把握する、押さえる

「空き家」・自分で住む、人に住んでもらう ←京北の人は家を2つもっている

(3) 取り組みたいことへの意見

○「仕事」

- ・帰ってきた子供に仕事があるか不安、帰ってきてほしいが(仕事のことが)ネック
- ・一緒に住みたいが、ここに帰ってきて本当に仕事があるのか
- ・場所にしばられない仕事、ここでしかできない仕事
- ・どう外からの人の流入を増やすか
- ・いろんな仕事を生むために、ここで暮らす人を増やす (例)京北の公務員が土日、仕事をすればよいかも
- ・公務員が地元採用されていない
- ・北高(北桑田高校)を出ても京北の林業の仕事をしな
→ それでもいい、外でいろいろ経験しても面白い
→ 5年仕事を京北でする、その後はあっせんして外に送り出してもいいのでは
→ 北高生で地元に残ることを希望している生徒はどれくらいいるのか
→ 地元の人を雇ってくれる所が、小さくてもいいけどあれば残ってくれる
- ・工場で作る仕事をしている、テレワークは職種による
- ・林業も雇用あるし、農業もやっているのは移住者

○ほかに

- ・自治会は機能しているが、消防団は高齢化している

昼の部

（1）これからの取組に向けて焦点を絞る

○環境を生かした仕事，農業で利益を

- ・農地はいっぱいある。販売での利益が出るかどうか
が悩み
- 京北での暮らしを再認識する，楽しく暮らせる
ようにする

○移住できる空き家の確保，京北での暮らし

- ・京北で暮らす際，移動手段が問題
- 京北から他の場所へ通勤できる
- 小中一貫校など，京北の魅力を発信する
- 移住者の方も，地域活動に参加してもらうように
- ・不動産の流動化
- 住宅用地の確保が必要
- 安い土地を入手しやすい仕組みづくり

○田舎暮らしの知恵を伝えられる人が高齢化

- ・料理などの知恵が受け継がれていない
- ・空き家が住めない状況になっている
- 移住する人の本音を聞く → 昔の人の知恵を残していく

「京北地域，田舎も魅力とは何？」

- ・「都会にないもの」が移住者にとっても魅力の一つ
- ・移住を希望する人の気持ちをどのように空き家の持ち主に伝えるか
- ・移住を希望する人が田舎暮らしに期待するものは何か？
- ・地域の良さとは？ これからのライフスタイルにつながるもの？

「暮らしに余裕を持てるライフスタイルを」

- ・楽しく暮らせるように時間（心）に余裕を
- ・毎日ゆっくり生活する
- ・自分のやりたいことを広げやすいような環境

（2）これから取り組みたいこと

○「空き家の活用を進める（移住促進に向けて）」

- ・地域の人，何が魅力かわからない
- 空き家活用，持ち主の協力が必要 → お試し期間が短い点も課題

（3）具体的な取組内容

○地域の魅力，田舎暮らしの魅力を自分たちが知ること

- ・ゆったりした時間，心の流れ，田舎の懐かしい心地よい
感覚，そこが魅力
- 都会の人も「郷愁」を感じるのか？
- 黒山塾の取組が参考になる。トトロ映画のような
感覚
- ・おーらい黒田屋の移住の取組

○田舎暮らしに向けた情報発信

- ・なんとなく田舎が良いと思う人もいる，そういう人にとっ
て京北はよい
- ・田舎暮らしの楽しさだけでなく大変さを伝える，忙しいこ
とも楽しいことの一つ
- ・京北小中学校の魅力なども伝える

○田舎暮らしができるような空き家の確保

- ・こんな暮らしもできる，モデルルームを作って，
それを提供することも必要
- ・片づけられない仏壇への対応など，行政の費用補助も
- ・古民家の賃貸，購入もできるように
- ・子育て世代が来てくれるなら，金額の調整なども考慮
してはどうか

（4）具体的なスタート

○田舎暮らしの知恵を伝えられる人が高齢化

- ・ママ友などの子育てのグループに地域の伝統を伝える
場づくり
- ・移住した人へ伝統を伝える場づくり
- 取組を継続させていくことが重要

夜の部

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る
○キーワード 「農業」

- ・農家さんが稼げる仕組みを！！
- ・肉体労働がキツイ →若い人しかできない
- ・土を使わずの、農業をする
- ・機械的（工業的）に農薬を使用しない農法がある
- ・農業を通して健康に！！
- ・免疫を上げることを基準にした農業の働き口を作る
- ・農業で使うビニールは植物でできているもの、土に還るプラスチックにする

(2) これから取り組みたいこと
○農家は稼げるしくみをつくる！

- ・京北では農産物が割安で食べられることを伝える
- ・技術的、伝統的な農法をハイブリッドで利用する

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る
○キーワード「魅力発信」

- ・テレワークのワーケーションを紹介する
- ・ワーケーションツアーを企画する
- ・サテライトワークを実践する
- ・一，二，三小跡地でワーケーションできるようにする
- ・民泊の人は車で迎えに行ける
- ・茅葺きの家や技術，茅場が世界無形文化遺産？になるそうなので，茅刈り作業，保存小屋管理などを仕事にする
- ・一，二，三小跡地で，空き家情報，必要な仕事の需要，供給を壁ではり紙で見れるようなカフェをつくる
- ・子育て移住者の魅力をポスターや冊子，フリーリーフレットなどにして，街の数カ所におく
- ・故郷がどういったものか感じてもらう
- ・京北の魅力というより，仕事のしやすさ，買物のしやすさをアピールする！！

(2) これから取り組みたいこと
○京北の魅力発信に取り組む！**①一，二，三小跡地で，ワーケーションできる個室&交流できる場所&シェア畑などを作る**

- ・民泊の経営手法を伝えるワーケーション
- ・学校に Wifi →地域の人が集まる場へ

②猟+テレワーク，ツアーで京北の獣をみる

- ・獣の移動がわかるデータベースの作成
- ・ジビエ解体工場を作る
- ・シカが地域に与える害を伝える企画を考える
- ・京北の色々な分野で詳しい人のデータベースの作成

(3) そのほかの意見

- ・高校（北高）の寮をどこかに作る
- ・納豆もち作り，しめ縄づくり WS をいろんなところでやって，文化を残す
- ・京北周遊バスがあるといい
- ・年配の方々の街ツアーバスを月1くらいでやる（大型・中型バスを出すだけ）
 - ふるさと公社の協力 ・久多（街へ行くツアー） ex.買物

昼の部

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る

○森のようちえんの取り組み

- ・自然の中での遊び
- ・まちなかの子どもは意外とのびのび遊ぶ
- ・3歳～小3の子どもたちが来る
- ・市内との間でバスを使って長期休みの時のみ
- ・すごい人気、市内の人が多く来る

○京北の子どもたちの遊び

- ・京北の子どもたちにも京北の自然でのびのび遊んでほしい
- ・交通の足がないのがネック
- ・バスの貸し借りは責任問題があるので難しい
- ・保育園との連携について、現在はない。難しい状況。

○京北の子どもたちの学校生活、教育

- ・コロナで学校生活がままならない
- ・コロナで7時限授業に
- ・一貫校になり、同学年が広い範囲になった
- ・ほとんどの子どもがバス登校に
- ・バス通学の時間で遊ぶ時間が減ってしまった

(・○京北の子どもたちの学校生活、教育つづき)

- ・集団登校が基本、近くの子と遊ぶならOK
- ・小学校の外遊び、課外授業にしてもカリキュラムとして大丈夫かどうか
- ・参観や話し合いが難しい状況に
- ・オンラインによるPTA全体会議はまだない状況
- ・市内への通塾も大変。高校のお迎えを兼ねている
(おじいちゃんおばあちゃんにお願い)

○高校卒業後の進路

- ・学校推薦多い、学部が専門的
- ・林業や農業など、多様性がない

【これからの取組に向けて】

- ・京北の子どもが京北の自然で遊べていない（京北の良さを受けられていない）
- ・以前は山や川で遊べた
- ・合併記念の森を活用して農作業などできれば

(2) これから取り組みたいこと

○「京北の子どもが京北で遊べる場を」

- ・森のようちえんのような場があるとよい
 - 土日に開催できないか
 - 基地づくりなど、よそで遊ぶことも
 - 雪かき、スタッドレス、畑作業、キャンプ場などを考えておくこと

(3) 具体的な取組内容

○「京北の子どもが京北で遊び学べる場を考えたい」

- ・京北の子どもにもものびのび遊んでほしい
- ・森のようちえん、ニーズがある
- ・小3以上にも自然の遊びを知る機会を作れないか
- ・市内：京北＝1：1くらいでできれば
- ・カブトムシの採り方なども自由に遊べるしくみづくり
- ・自由な川遊びも
 - 安全性に対する知識、技術を持つ人の確保
 - 指導者を育てたい
 - 自然遊びの提供者／指導者の育成・確保

(2) これから取り組みたいこと

○「京北の子どもたちが移動しやすい交通手段」

- ふるさとバスもあるが、登下校に合わせたダイヤ。それ以外は現在はない
- モビリティの取組、ソフトバンクの協力なども考えてもよい
- ・ふるさと未来科での取組
- ・いろいろな課外活動が始まっている（12/16 発表）

(3) 具体的な取組内容

○「京北の中での子どもの移動、交通手段を考える」

- ・自動運転の交通システム、コストの問題もあるが
- ・ようちえんバスの活用
- ・おじいちゃんおばあちゃんの協力を得る
- ・元気なおじいちゃんおばあちゃんが多い
- ・乗り降りくらいだったらサポート得られそう

夜の部 ①

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る

○キーワード 「空き家」

- ・空き家の改修 WS (半日) + イベント, 遊びとセット (半日)
- ・黒田ルール (面接, 一軒まわり, ボランティアの説明)
- ・情報がでていない, 黒田の人の良さ
→アクセス意外に良い
- ・警戒心をどう突破するか!
- ・唯一の不動産屋の紹介 →イメージがちがう!!
→結局, 紹介してもらう
- ・スークさんに想いが伝わりにくいのかも
- ・美山, 大原は×
- ・古民家大きすぎ問題
- ・貸したいより, 売りたい!!
- ・プライド高いし, 値踏みしたい地元
- ・Uターン, 3世代, 敷地内に同居
- ・仏壇問題
- ・月1回とか, 仏壇とか, 離れとか, 使い方含めて引き継ぐ

○キーワード 「北桑田高校」

- ・北高の存続方針転換!!
- ・指定校推薦結構あるぞ
- ・今の40代は北高のイメージ良くなっているぞ!!
- ・北高へ小中が植樹体験, R2~
- ・北高への部活のつながりが悪い
- ・北桑田高校自転車体験会
- ・ボルダリング体験会
- ・生徒を宣伝に使うのはちょっと・・・
- ・下宿の受け入れ, 地域ぐるみ

○キーワード「テレワーク, ワークेशन」

- ・テレワークが一般化した時の京北の売り方
- ・ほとんどテレワーク, 副業OK, 企業の移転ではない
- ・経済同友会がワークेशनを, 里山をターゲットに

○そのほか

- ・合併による保育の質を合わせようとした
→スキル違うのに
- ・実は京北に鉄道が!!

(2) これから取り組みたいこと

○「古民家の活用, 発信の仕方」

- ・放っておくと朽ちていく家, たくさん (黒田)
→DIYワークショップ
- ・京北に来る理由→市内に通える自由度の高い里山
- ・京北 (ド田舎) ⇔京都市 (ブランド)

(3) 具体的な取組内容

- ・しゃべる場所が必要→人間関係→古民家を託す
- ・空き家活用・回収, 住めるようにするWS
- ・面談, 事前に伝える (おーらい黒田屋)
- ・地域の活動にどこまで参加できる?
+活動費の徴収

(2) これから取り組みたいこと

○「就職, 職業観」

- ・身近なお兄ちゃんが紹介したい

(3) 具体的な取組内容

- ・京北を離れるとこんな世界が!!
→いろんな選択肢を子どもに与える
- ・京北の仕事紹介, 京北以外の仕事紹介, 小中学校WSで実施
- ・子どもが少し大きくなってUターン

○そのほか

- ・住む場所と仕事, 新しい企業の形
- ・ふるさと納税民間版をつくる, クラウドファンディング
- ・返礼品, 京北産品で, サブスクで, 個人向け・企業版も

夜の部 ②

(1) これからの取組に向けて焦点を絞る

○キーワード 「(情報発信)」

- ・日本の良さはわかる，京北の良さは？
- ・京北の良さは何？？
- ・京北にずっといるとコミュニティが小さいまま
- ・小・中・高ずっと同じメンバー
- ・京北をでると視点が変わる
- ・自然ではないシンボルをつくる
- ・地域新聞で情報発信
- ・地域新聞は特に若い人は見ないが，Web だと見てくれる
- ・京北の Youtube チャンネルがあれば地元のつながりが近くなる
- ・子どもを村全員で応援する

(2) これから取り組みたいこと

Youtube で “京北チャンネル” 大人全員で子ども全員を応援する！！

○子育て世代のコミュニティ有り

- ・いくつかあるのをネットワークに
- ・子育て世代のアルバイト先が少ない
- ・在宅ができる仕事（動画編集 etc）

○イベント知れる，お店知れる

- ・同級生に伝えたい！！
- ・地域企業の広報，協賛
- ・京北の多様な生き方，働き方に触れられる

○応援を表現する

- ・寄付を通じて応援
- ・目に見える形でお金を使えれば
- ・お金を出してもらって返礼品をもらえれば，応援しているという実感が湧く
- ・お金は自治会費から一部だしてもらえればよい
- ・チームに寄付金を払ってもらえれば，チームへの興味が湧く

○SNS 等，多様なメディアを活用

- ・ヨソモノをターゲットに（応援・移住）
- ・村の日常が外部には新鮮

○祭り，スポーツ，人が熱狂する接点

- ・京北の祭りは同じ日だから，他の地域の祭りを知らない
- ・京北の田舎らしさは，他の地域の田舎らしさと同じ
- ・スポーツ少年団を地域で応援すれば，地域が身近になる
- ・かつては老人ホームで祭りをやっていた
- ・パブリックビューイングをみんなで楽しむ
- ・公式で馬券を買って，実況をパブリックビューイング

○子どもが情報発信

- ・北桑田高校放送部
- ・ユーチューバーになれる！！
- ・既に，中学生ユーチューバーいるよ
- ・取材を通じての交流
- ・京北に特化した特集を，学校，地域でつくる
- ・学校と地域，距離あるよね